へ13
2483
22

へ13
2483
22

今昔虎實錄

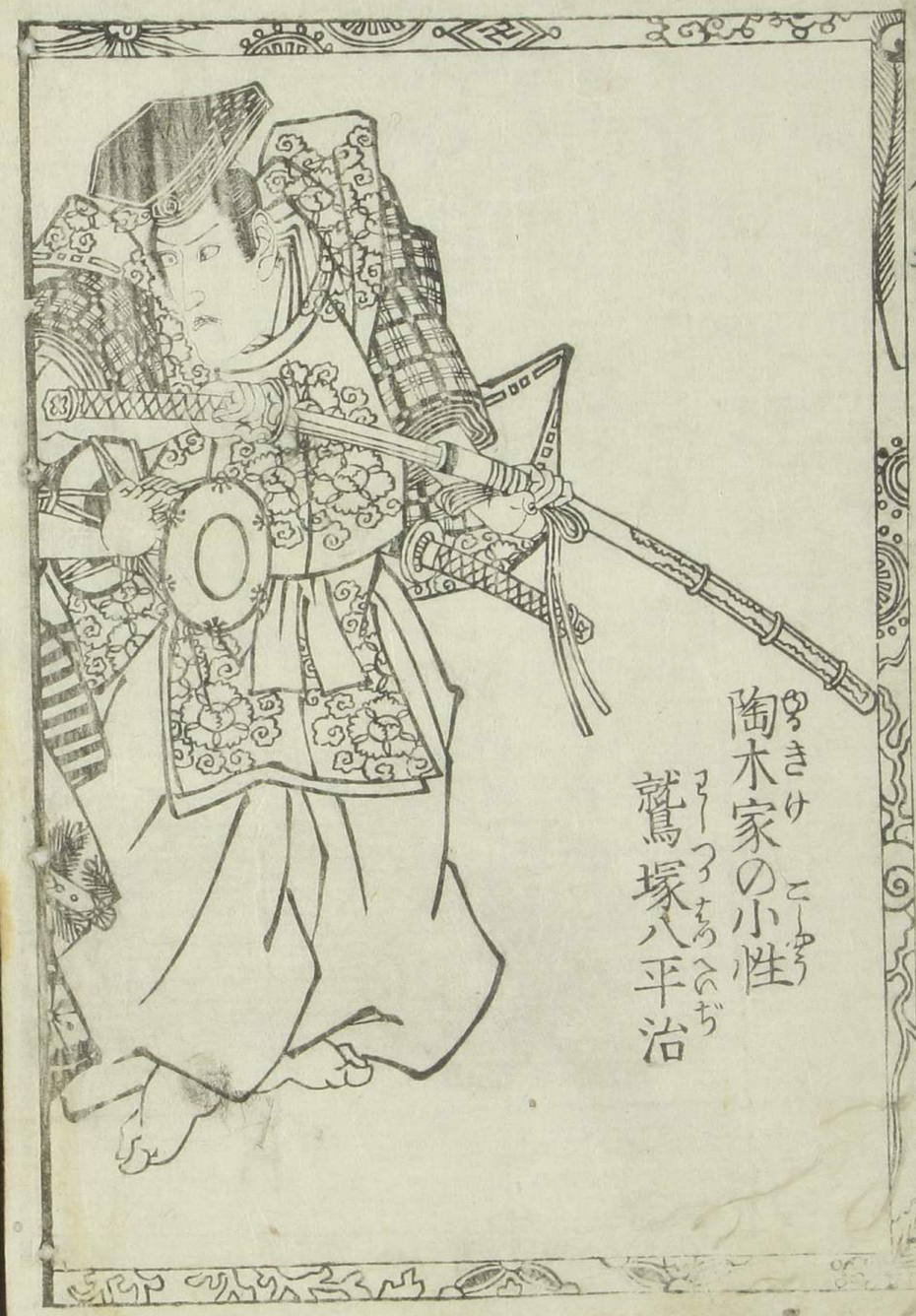
櫻川慈悲成作　全部六冊

歌川豐國画　上之巻

文政四年辛卯孟春　永壽堂　西村梓

遠13
2483
22

先ず人を笑ハせてゐる青本ハ戯作者先生多くあり芝
居ハ全交の手ゞ師芝櫻川杜芳あり全交ハ長物
語杜芳ハ夢茶修行抑の強者その志ハ腹ハ皮袋よりも今ハむかし
を其まゝ人ハ忘さまゝ今富川房信奥村政信の草本古
物ハ流行ぬ絶たりとなりくるの作品
にて戯言せしと馬喰町の主人の勧めるの門くちりの
けりかき今を昔ハ楽分を綱馬之逸様の所伝なり
魚ぐく飯ハ動度松ばさと
寄川豊国五年前之画
文政十四年辛卯春発兌　芝ッ子の　櫻川述



陶木家の小性
鷲塚八平治

徳若の御方
在所の工夫風を
杜若畠よかけて
八ッ橋乃其むかしさを
江戸乃花柴まゝ
松さやゝ鼓の志らべ四海波
高砂さんでワキ狂言ゆあを
あゝね鷲塚伊達を此一巻の
狂言師なることを
口画よ志る

同小性
伊達與作

与作ゞ兄
與八郎
桂政
藝子
伊呂波
関の
出女
小万
此面の横
馬乃背よ
樵と樵や
伊勢まつ
自然暮
三吉
今昔

横面春藏
波羅門密右衛門

故人
談洲楼
焉馬
闇雲利金太
羊虫
小郎小郎

陶木
馬之烝殿

其昔夏の日
白ふで多の
草庵へ
中ごろ
ものまび
あらこうべ
さぶとそ
隠居
白猿
とまれる
加賀の湯と
茶屋男一春の
茶屋茶屋奥の
乃茶屋ぐべと
能師
竹村定之進

故人
歌川
豊國
似顔
うまうり
実
紅
梅の
かん乃
葉

此摺は此絵をてる波はとの中上まつ
あくふ矣の根ゝ解を行ゝ中ゝゝゝ
ゝゝんゝの私兄弟分の故人歌川豊國
茶ゝ和ゝ者の国國ゝ沿ゝゝまゝ此義ハ
ゝゝゝの二代目歌川豊國大江戸ゝゝゝ
ゝゝゝ先の者国国ゝ絵出ゝゝ
ゝゝゝの出れ何ゝゝゝとゝゝゝゝゝ
ゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ

「こうしんれん身也

「アさんれんな

高塚

今様賢錄
中冊
大阪屋茂八版

左

今世虚實録

中巻

慈悲成はぐくむ

豊国画

伊つ吉新板

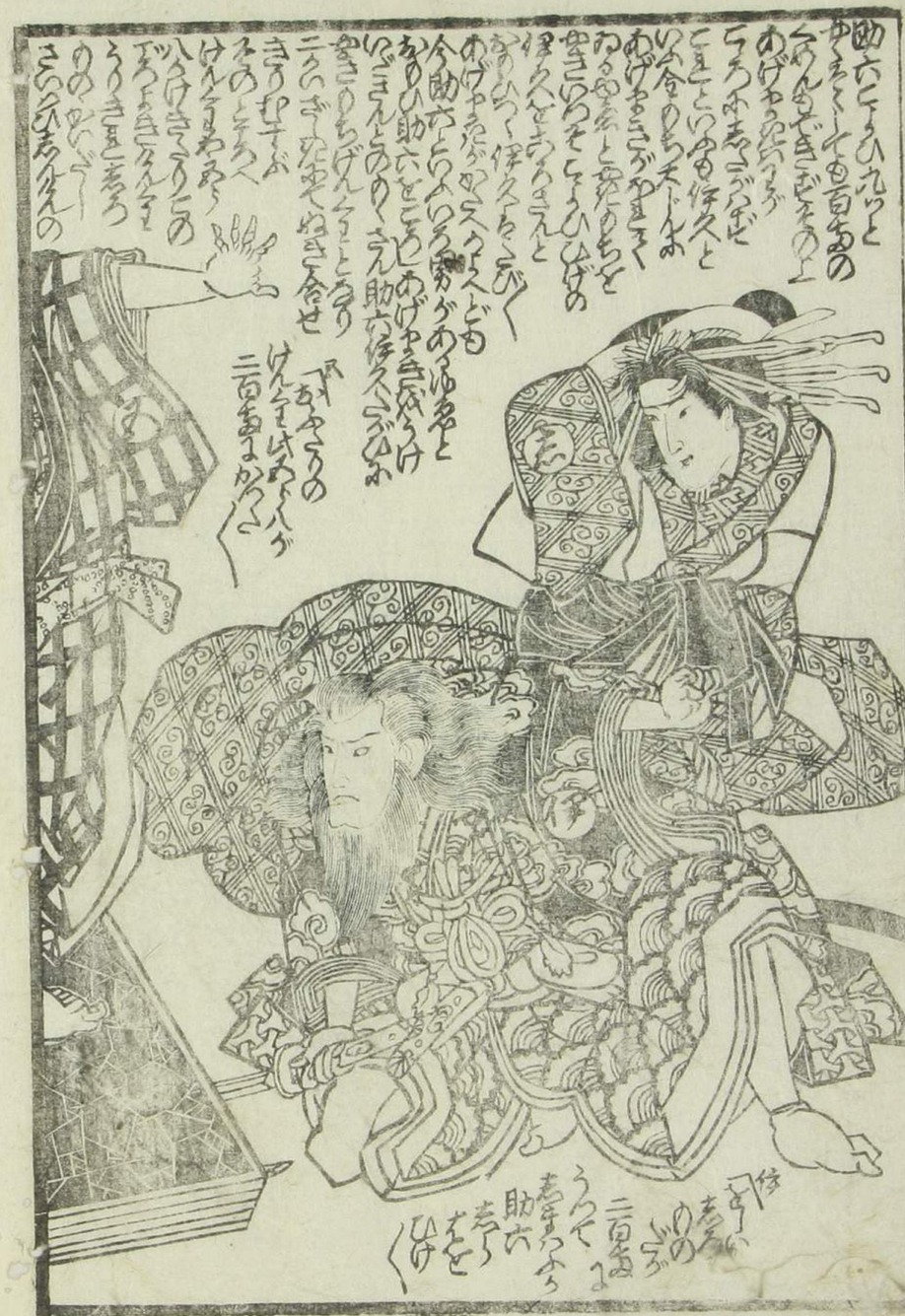
馬喰町二丁目

丸村版

定

南京屋

豐國画
慈悲成作



櫻川慈悲成作
歌川豊国画

今世の實録

忠義

行乃 善悪成作

豊国画

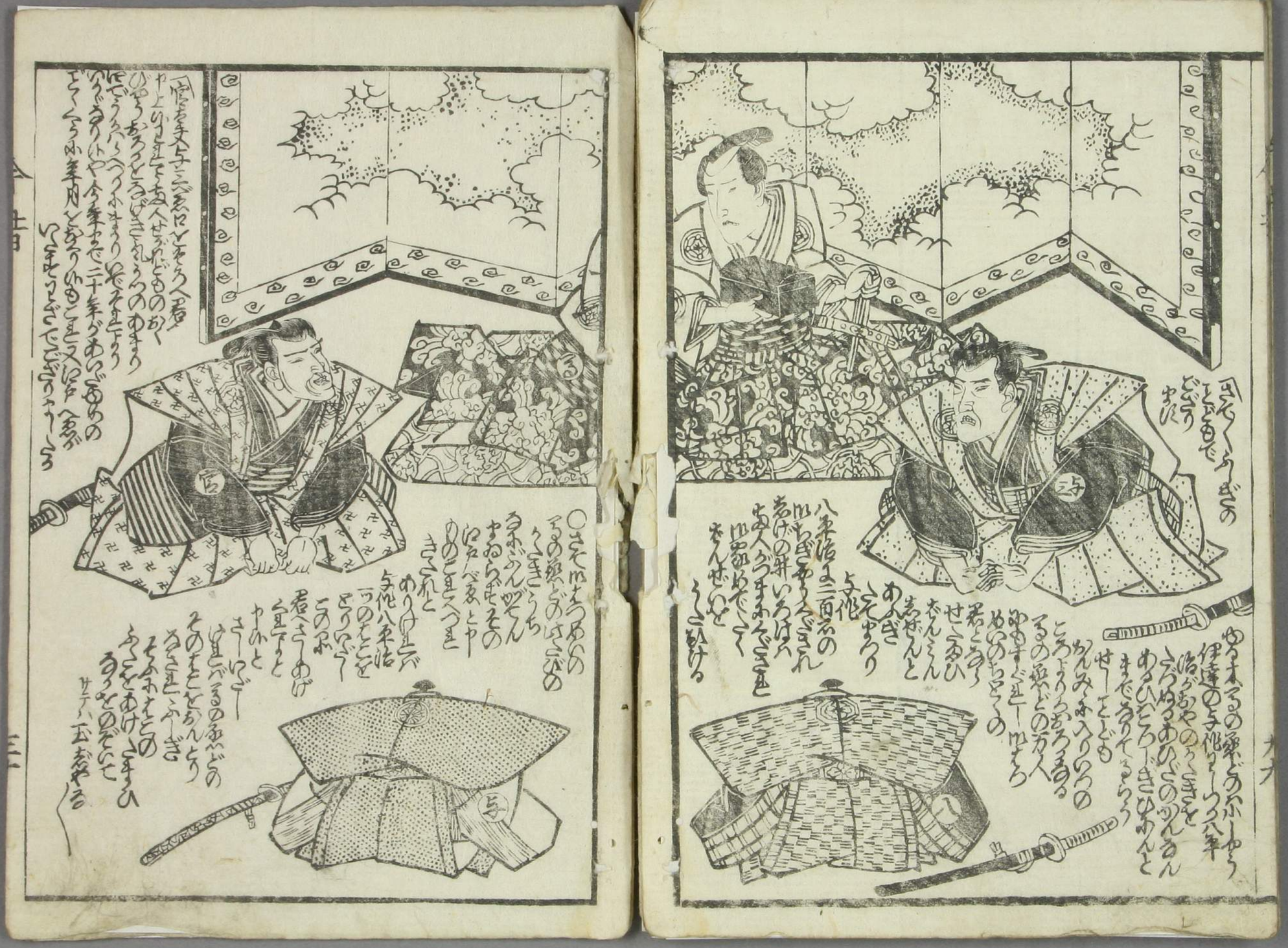
西與版

八幡殿の長男義家の
次男として今助六と
町人ゆえ名をきまゆう
ごりもうすとなりひ
ひとまわり三人ぐらと
らめい一わすれこの
らくらんとあるめ
ぬけのめをそん
にてこの中せんせいを
のぞきうーふと川の
れきへつまもの
○三人ばかりもりくの
りんでらとわーつまく
ばかりとのざーにゆそ
ばくこうすー
ゆうーつみ
小きんを
よびけんでも
ゆめーもちーず
ふんまーーぐ
まげの井八
八幡殿とまりこる
人とうめらまぬゆうゆと
うこねうゆーて〔つぎへ〕

東海道

木曾街道

うたかわ
「さて〳〵よく



○書林永壽堂新刻目録

前北齋翁一先生画　自正月至四月

繪本庭訓往来 一冊

文蜘堂先生書　後編追々出板

今様櫛笄雛形 右同画　著　全三冊

盆画獨秘百古 月花永文著　盆画　全一冊

柳亭種彦随筆

還魂紙料 此紙和漢の書を載るに成編する所の貴重なる書籍の原本を模写したるものなり　古画古圖入三冊出板

御家流

手紙之文言後集 蓮池堂先生書　中本一冊

山繭養法秘傳抄　北澤始芳大人著　全一冊

茶の湯早指南　蟾月齋先生著　小本全一冊

白澤圖　宋紫石画　東洗先生讃　一幅

新形染彩目　前北齋為一老人画　全一冊

活金剛傳　初編　角力の浮世絵　二編　忠義を勸る浮世絵　歌川国安画　中本一冊

四十八手関取鏡　角力の浮世絵　五枚の図絵巻　せい一本ゆり

せんさくの姉妹

蘭方玉屑

文政十四年辛卯春新版発行

千代褚良著聞集　上帙四冊　曲亭馬琴作　下帙四冊　歌川國安画

戯場正本當現建　初編四冊　立川馬作　二編四冊　香蝶楼國貞画

菊の井小七時雨傘　全六冊　志満山人作　歌川國信画

今昔虚之實録　全六冊　桜川慈悲成作　歌川豊國画

敵討湊之曙　全六冊　為永春水作　柳川重信画

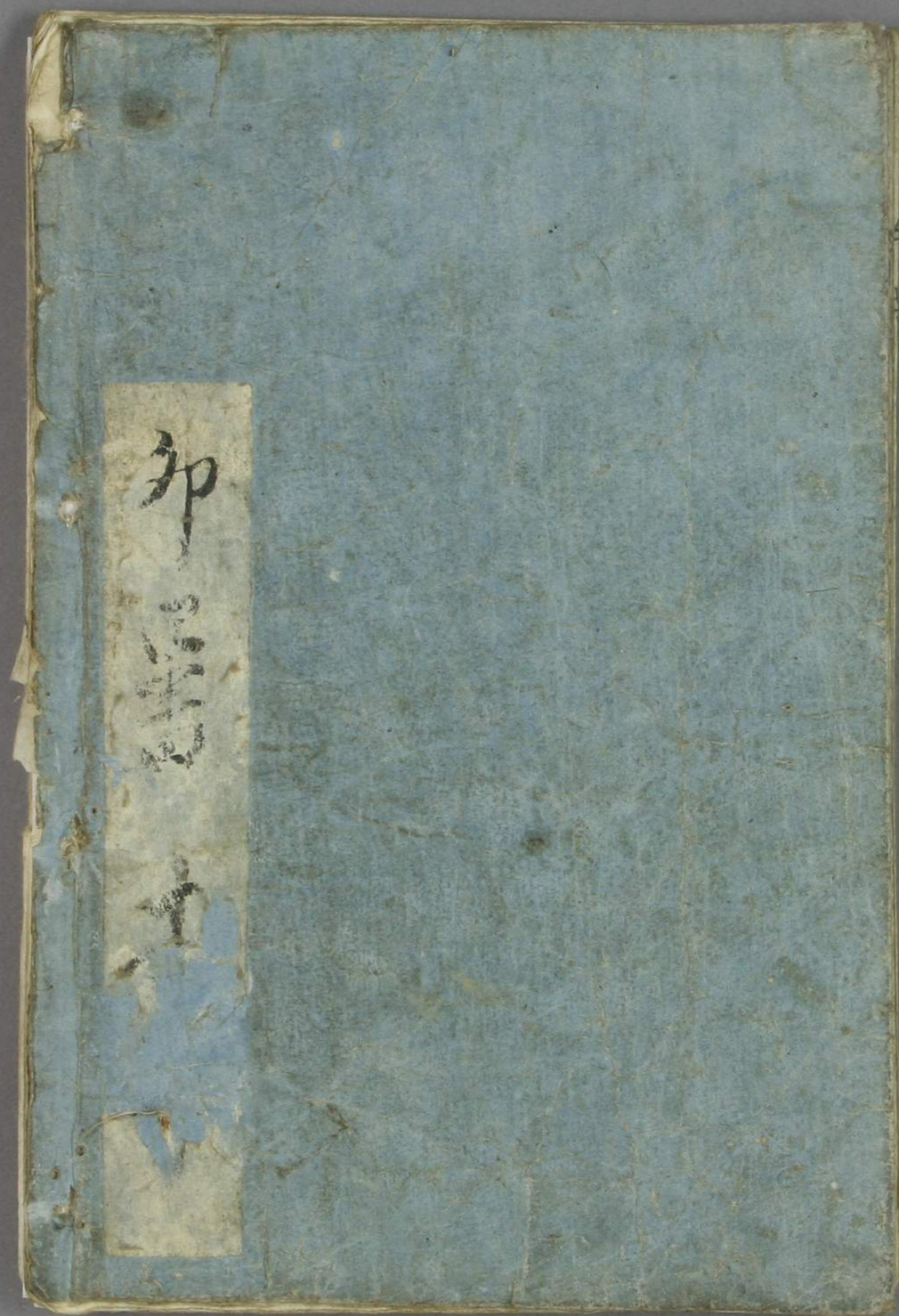
御誂替嶋廻　初編九冊　後編二冊　十返舎一九作　歌川国貞画

仙女香　在二居武代記十八回　京橋浪花一丁目四郎兵衛

美女香　坂本氏製

永壽堂　西村屋與八

江戸馬喰町二丁目南角

錦繪國貞地紙張類

書物地本問屋